

### 私の中の柏東

11期生  
日高 友美

涙と感動の卒業式の事を、ついこの間の事だった様に思います。高校時代の3年間の事は、私にとって貴重で本当に思い出深いものでした。中でもいい先生方と出会えたという事、今でも誇りに思っています。当時、就職するか進学するかで大変悩んでおり、その事のある先生に相談をしました。担任でもない生徒の私の話を、熱心に聞いて下さり、幾日も及びその事について意見して下さいました。結局、家の経済面からも就職するのがいいと決断し、進学の道は断念しました。現実というのは厳しいんだと悟り、そして自分を励まそうとも努力はしましたが、なかなか力も湧かず、悶悶とした日々を過ごしていました。そんな落胆している私に対しても、その先生は、いつも温かく激励してくれていました。卒業後2年間は学校からの斡旋の会社で働き、その後は今の眼科へ転職しました。そして、その病院からの勤めで現在は看護学校へ通っています。働きながらの学生なので、いろいろつらい時もありますが、自分があの時悩んでいた事が、今にして解決し実りとなりました。先生が、自分さえやる気があるなら、何歳になっても勉強できるし、道はある」と強く言ってくれた事を今でも思い出します。そういった事もあり、私の中の柏東は現在でも根底として継続しており、これから先もそうであります。この場をお借りしまして先生に一言お礼を言わせて下さい。ありがとうございました。



### 人生は山登り

11期生  
大下 智道

『光陰矢のごとし』とか申しますが、卒業して早や6年の月日が流れ、この夏には、二児の父親になる今、柏東での自分を振り返ると、私達11期生から、制服が変わり色々厳しくなり、入学前に抱いていた「自由な学校」ではなかったが、1年を過ぎる頃には、なぜか「おもしろい学校」に変わって来た。

指導熱心な先生方の中に、個性的で「えっ」と思う様な先生が多かった学校で生まれた「柏東体操」。それは余りにも変で、いやだったが卒業する頃には、当たり前になっていた。慣れというのは恐ろしい！でも今では懐かしい思い出の一つです。高校での3年間は、いやな事も多かったが、楽しい青春時代でした。

先生方の教えを柱に、柏東の卒業生らしく登山の精神のごとく、無理な事はやらぬが、あきたり、見切りをつけたりはしない。一時の後退もあろうが、それは前進の一手段としての道として、柏東の地獄坂を登る様に、ゆつくり廻り道をしながら、「人生の山登り」、そんな気持ちでこれからも自分の足で確にしっかりと一歩づつ歩いて行きたい。

最後に、色々御指導を頂いた先生方には心からお礼を申し上げると共に、これからも私達の良き師でいてほしいと願い又、私達の高校、柏東の益々の発展をお祈りし、20周年に寄せる言葉とします。

# 12期

1988~1991



## Memories



### 思い出深い我が12期生

12期学年主任  
辻 光男

創立20周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

昭和57年から平成4年まで11年間お世話になりました。特に、若輩ながら12期生の学年主任を勤めさせて戴いたことは忘れることができません。

比較的若い学年団で出発したこと等で、毎日が不安の日々でした。しかし、この学年は違うと感じたのは1学期の後半頃です。素直に我々教員の指導を受け入れ従う生徒が多いという実感を持ちました。体育科の先生方の指導で、体育祭の核となった「エッサッサ」を始めたのはこの学年からでした。年を重ねる毎に成長して行く生徒の逞しさと迫力を、鳥肌の立つ思いで見つめていたことを忘れることができません。2年目からは、女子のダンスが加わり、華やかさと壮厳さで体育祭が締め括られるという、それまでになかったものとなりました。柏原東でこんなことができるとは想像すらできなかったことです。

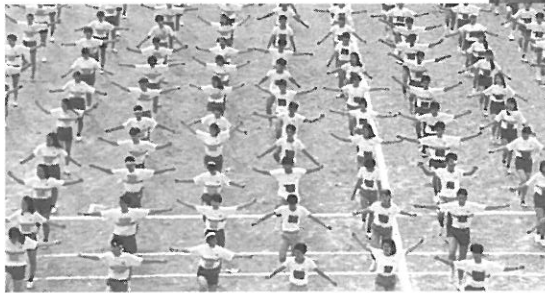
更に記憶に残っているのは修学旅行。スキーという形態では変わりなかったけれど、夜のクラス対抗歌合戦は、どのクラスも工夫を凝らし、すばらしい出来栄で感動

の一語でした。最後に学年全体の曲「思い出の赤いやつケ」を合唱して青春の1ページにふさわしいものとなりました。

ややもすれば「そんなことはできないだろう」と及び腰になりがちな我々教員に、やろうと努力すれば素晴らしいものが柏原東でもできるということを教えてくれたのは12期生でした。

私にとっては短く感じられた3年間でした。教員と生徒が力を合わせて頑張り、信頼関係を創り上げることができた学年だったと思います。12期生の諸君には感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に柏原東高校の発展をお祈り申し上げます。



## 柏原東に入学して良かった

12期生  
岩川 涼子

卒業してから、もう5年が経ちます。体育祭や文化祭、遠足に修学旅行、学校行事だけでなく、クラスでの授業や、友達との他愛ない会話、そんなひとつひとつが、私にとっては大事な思い出です。

期待と不安に胸をふくらませながら入学し、新しい友達をつくるのに一生懸命だったような気がします。クラスの友達が学校を辞めていくのを、うらやましく思ったこともありましたが、そんな勇気がない私は、“このままでは、本当につまらない、時間を無駄にするだけだ”と思直しました。

2年生になり、新しい友達も出来ました。修学旅行も、いろいろとありましたが、今では良い思い出となりました。そう言えば、当時担任だった先生の結婚式の披露宴にもクラスみんなで出席させていただきました。

そして3年生。進学に就職と、大変な時期でした。つらいこともありましたが。

けれど、そんな私を励ましてくれるように、そばにいて、笑わせてくれたり、話を聞いてくれたりしたのが友達でした。もちろん先生方も心配して声をかけていただいたのですが…。

“柏原東高校に入学して良かった”と心からそう思います。これからも、みんなの思い出に残るような、すばらしい学校であって欲しいと思います。



# 13期

1989~1992



## Memories

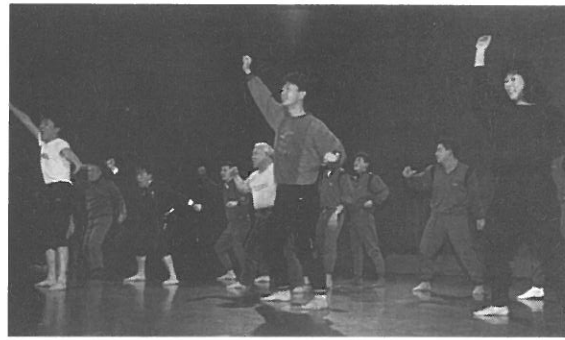


### 13期生を救った わらび座修学旅行

13期学年主任  
白浜 治作

日本の元号が、昭和から平成に変わったその年、13期生が入学してきた。今から7年前である。私たちは多くのことを期待し、多くのことを要求した。だまっていた君達はずいに怒った。そして、しばらくの間、お互いの間に気まずい空気が流れた。そんな中、平成3年1月20日(日)前半のクラスが新大阪駅より秋田県のわらび座本拠地へと旅立ちました。「誰がソーラン節なんか踊るか」「修学旅行でなんでソーラン節踊らなあかんねん」そう思っていた君達の中の誰かが発表会のあと、私のそばに寄ってきて「先生、素晴らしい修学旅行をありがとう！」って言った。みんなの顔は全員で力を合わせ、声を張り上げ、力いっぱいソーラン節を踊りきった感動と満足感でいっぱいでした。そこには、真に輝く顔がありました。私は、この時おもしろい経験をしました。前半のクラスが帰る日の夜、後半のクラスが到着したのです。彼らは2、3時間共に過ごす時間があつたのですが、感動を経験した顔と未経験の顔の落差がはっきりとそこには表れていました。後半のクラスの子の顔にはむしろあせりみたいなものがありました。感動は人を変えると云いますが、まさに後半の人は変わった友人の姿を見て面食らつ

ていたのです。従って後半の人たちのソーラン節に取り組む姿勢は前半の人たちよりも積極的であり、与えられるというより、自分達で掴み取るんだという意気込みが感じられました。共に大きな感動を私たちに与えましたが、前半は嫌々ながらであつたがすごく良かったという逆転のドラマが与える感動、後半はより早く前半の感動を共有し、前半の人たちに同化したいという若者の持つ純粋さに触れた感動でした。私は心の中で「やった！」と叫びました。このわらび座修学旅行で気まずかった空気が吹っ飛び13期生はよみがえつたという実感を持ちました。その夜これまで毎年のように出ていました「正義マン」はずいに出来ませんでした。計画はあつたのですが、以降今日まで出ておりません。元号の変わり目に入學し、服装問題で新聞に載り、本校始まって以来わらび座修学旅行に行き、カルタ大会を初めてやり、コンピューターを使つての授業も初めてやり、授業も極めてうるさかつたなど話題に事欠かない13期生ではあつたが、わらび座修学旅行を語らずして13期生は語れないの感を今も強く持っています。



### 全てが思い出であった

13期生  
落合 竜馬

私の高校の思い出というとたくさんの行事です。私自身も生徒会を通じて自ら企画し運営する立場にあつたのでそれぞれに多くの思い出があります。

体育祭はやはり3年生のときが一番印象に残っています。体育祭当日、足の負傷により、今まで練習してきたエッサツサや応援などもみんなと一緒にやる事が出来ず、本部席よりみんなのがんばる姿を見たときのくやしさが思い出です。

文化祭は、これも3年生のときが一番印象に残っています。それは白浜先生を題材にした劇を行い、その中で私は白浜先生のお父さんの役をやらせてもらい、初めて人前で、しかも舞台の上で演技を行った、あのものすごい緊張感が今でも忘れられません。それからやはり修学旅行が一番思い出に残っています。みんなで踊ったソーラン節、みんなの心が一つになったときのあの感動は今でも忘れることはできません。とても苦しいやであった体育の授業での持久走や、生徒会活動。特にその中で制服の問題について夜遅くまで生徒会室で先生達と意見を交わした日々が思い出されます。

このようにいろいろな思い出がありますが、やはり私は、自然の恵みに囲まれ自由でのびのびとした校風を持つ柏原東高校でたくさんの友人、先輩、後輩と過ごした一日一日が全て思い出であったと思います。そして高校で学んだたくさんのことが社会に出てからとても役立っています。



### おもちゃ箱での生活

13期生  
小西 綾子

創立20周年おめでとうございます。

私にとっての柏東は、例えるなら、おもちゃ箱です。いろいろなおもちゃが入っていて、飽きる暇もなかったように思います。体育祭、文化祭、ごく普通の日常、そういう名前のおもちゃに、喜んだり、泣いたり、笑ったり、怒ったり、私はそういう高校生活を過ごしました。

今、大人の社会に出て生活していて、ふとしたことから押し入れにしまってあったおもちゃ箱を見つけ、一つ一つ手にとってみると、ほんのささいなことで友達と揉めた時も、スカートが短いことで先生と揉めた時も、なにかも本気で取り組んできた日々が私にもあつたんだと、とても愛しく思えます。

13期生が卒業してからは、柏東に行くこともなくなつてしまつたけれど、今もこれから先も、柏東はこの場所にあり続け、遊びにいくと「おかえり」と迎えてくれる、そういう存在であり続けて欲しいと思います。

# 14期

1990~1993



## Memories



### 初めての耐寒ハイク —14期生の頃

14期学年主任  
上塚 真琴

柏原東高校創立20周年、おめでとうございます。

現在は中卒生の急減期が進行中ですが、6年前の14期生の頃がその最初でした。1学年12クラスが少し減少して10クラス募集になり、超過密状態が解消にむかう時期でした。過密解消の展望は生徒諸君の変化に表われ、私達も「何か前向きなとりくみ出来るのではないかと考え初めていました。事実、この年の体育祭（12期生が3年生）から、これまでにない生徒諸君のエネルギーを感じたのは私だけでなかったと思います。

当時1年生だった14期生の生徒諸君も、私達学年団もそんな変化を感じていたと思います。それまで1年の3学期は行事もなく、淡々と学年末をむかえていました。3年は卒業試験、2年は修学旅行とそれぞれの節目をむかえる頃、1年生は何もありません。私達も14期生が2年になるまでもうワンランクアップをと考えていました。そこで考えたのが耐寒ハイクでした。考えてみれば柏原東ほど自然環境に恵まれた高校もめずらしいですし、その地の利を活かそうと考えたわけです。さっそくコースの選定に入りました。学年団の堀先生や鈴木先生、森田先生や上林先生らが複数のコースを下見して、結局は平

群一鳴川峠—府民の森—一枚岡神社のコースに決定しました。

当日は高井田駅に集合、二隊に分散して乗車し、王寺駅から平群へ。誰一人として脱落するものもなく府民の森へ。府民の森ではひどい寒さの中で震えながら昼食をとったことも今となっては楽しい思い出です。

さて、この14期生からの耐寒ハイクは今では1年生3学期の定番行事として定着しています。歩くコースこそ変わりましたが、昼食時のレクリエーションや保護者の皆さんの炊き出しがあつたりして、実に楽しい行事に発展しています。今の柏原東高校では学校行事・生徒会行事にとどまらず、学年独自のとりくみも充実させています。14期生の耐寒ハイクはその最初の頃の、そして成功したものの一つでした。



### 野球あつての私

14期生  
北尾 聖次

入学してすぐ硬式野球部に入りました。そして、1ヶ月後には6番を頂きレギュラーとして数多くの試合に出ました。しかし、いつも不安との戦いで、ミスばかりで元気がなかった私に、先輩達の温かい激励をもらい野球を続けることができました。

2年の夏、先輩達も引退し、いままで教えられたことを思い出し、私達の時代にいかそうと第1日目の練習にのりこんだのですが、練習前に監督をまじえてのミーティングでいきなり「キャプテン」を命じられました。私なりに「自分に負けない」と目標を立てました。厳しい練習も自分のためと思いがんばりました。そして野球全員が日々成長し、皆が一人を勇気づけ、一人が皆を勇気づけられるようになり、全員が一丸となり練習と試合にとがんばりました。このクラブ生活で皆いろいろ教えてもらい、今社会の中で役立っていることが多いと思います。私の尊敬する指導者の言葉に「昨日の自分と今日の自分を比較しなさい。他人と比べるのは一番おろかだ。」とあります。これからも自分の信念を大切に職場でいかしていきたいと思います。

野球部の監督、先輩、後輩、そして14期生、お世話になった皆ありがとうございます。



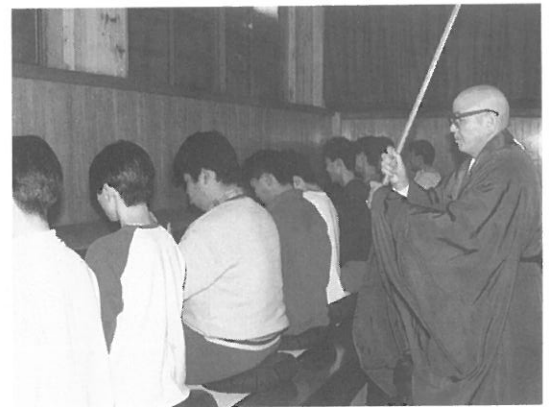
### 仲間

14期生  
糸川さつき

「高校生活の中でできる友達は一生ものだ。」というセリフをよく聞きますが、それが高校を卒業して社会に出た今、よくわかります。柏原東に入学したばかりの頃の私は、「まー適当にやったりやいいか〜」という感じでした。しかし、1年生の夏休みの「リーダー合宿」に参加したのがきっかけで、今まで自分とは無縁だと思っていた生徒会活動に参加するようになりました。そこでは、たくさんの人達と知り合うことができ、頼れる先輩ができたり、兄弟のように仲の良い後輩ができ、とてもいい出会いの場が作れ、たくさんのかんげいを経験することができました。中でも一番の思い出は「文化祭」です。文化祭を自分達の手で作ろうと毎日遅くまで話し合いをし、目標は1つなのに意見がぶつかり合っただけでケンカをしたり、うまくいかないことにイライラしたりもしながら、でもがんばって作り上げた文化祭は最高でした。高校を卒業しても「会おうよ。」と声をかければ必ず集まってくれるし、何かあれば必ず連絡をくれます。お互いが暗黙の了解のように「ずっと仲間だ」と思っているのだから、自分自身がムリをしないで、ありのままの自分で、会うことができます。そんな仲間との出会いの場を与えてくれた柏原東高校に感謝していますし、これからもいい人間関係を作る柏原東であってほしいと願っています。

# 15期

1991~1994



## Memories



### 素直でパワーを 秘めた15期生

15期学年主任  
仲谷 秀雄

15期生が終着に近い3年生の秋、11月の中頃、本校体育館で封切り間もない山田洋次監督の「学校」を鑑賞した。上映が終わっても、生徒達は立ち上がろうとせず自然と拍手した。余韻をふくんだ感動の拍手であった。もちろんこの映画の素晴らしさがそうさせたに違いないが、8クラスでたいへん見やすいという条件に加えて、15期生は入学したときから生徒達は、「いいものはいい」とうけとめる素直さをもっていた。

その素直らしさを感じとって教職員はいろいろな場面で生徒達を励ましてきた。毎年1学期の中間考査終了の時期に行なわれている球技大会では、1年生の時は雨で中止になったが、2、3年生の時ともなんと明るくにぎやかにプレーし、応援していたことか。文化祭では「くすかごマーク」が校舎壁に登場したり、大和川の「どんこ」が生きたまま展示されたり、ちぎり絵の大作が飾られたりした。体育祭のエッサッサ、創作ダンスもばっちり決めた。修学スキー旅行に際しては、修学旅行委員を中心に生徒達はその意義や目的を話し合い、とくに夜のクラスタイムの取り組みの位置づけを行なった。こうして雪がしんと降り信州の宿舎で、困難と思われがち

であったクラスレクリエーションがすすんでいった。クラスの仲間同志はもちろん担任と生徒の間にもたくさんの幾く筋もの心の交流が生まれた。このために担任の費やした心労と係の先生方の周到で生徒を信頼した準備は大変なものであった。そしてこの経験がその後の柏原東高校の教育の柱の一つに大きく花開く元肥となったに違いないと思う。







### 柔道の思い出

15期生  
樋口 真弓

私の高校生活の一番の思い出は、3年間在籍した柔道部の事です。柔道のルールも何も知らずにただ「投げる」というのがどんなものかやってみたくて入部したのですが、あんなにも楽しいスポーツだとは思いませんでした。柔道部は毎日練習があり、遊びたくなる日もありましたがいつも楽しんでクラブに行っていました。

そんなある日、練習中に足（指に続いている細い骨。第五中骨）を折ってしまったのです。それから約2ヶ月ほど柔道ができなくなってしまいました。始めは読書やテレビを見て家で休んでいたのですが、しばらくすると柔道をやりたくてたまらなくなっていたのです。その時私は柔道が本当に好きなんだなあと思いました。

やがて足も治り、試合にも出場できるようになりました。私達の頃はけっこう活躍していたので（私はあまり強くなかった）男の子達が優勝した時などは終わってから遊びに行ったりしました。今もその時の事や、暑い日の練習で疲れて畳の上で休んだり、合宿のテントでの自炊、最後の大会の事をとてもなつかしく思い出します。柔道はどこでもできる手軽なスポーツではないので、高校でやっていて本当によかったと思っています。そして夏の厳しかった練習のことを思えば、今もこれからも少々の困難に立ち向かって行ける気がします。柔道はまさに私の青春であり、高校生活の忘れ難い思い出です。



### 柏原東高校をふり返って

15期生  
多治比良一

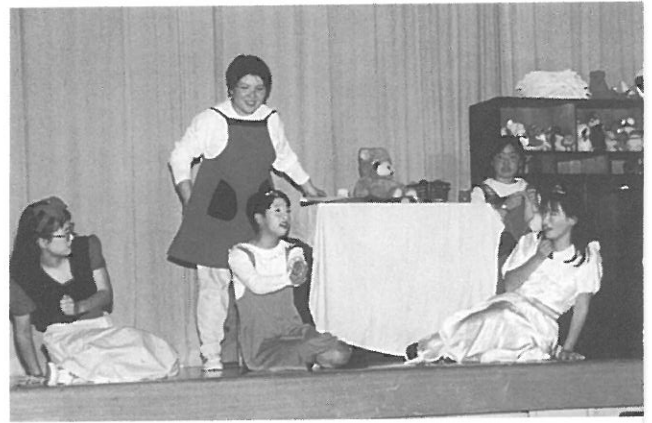
私が卒業してから2年以上になりますが、高校生活で学んだ事を生かしてがんばっています。まず、社会人になって感じた事は、社会はそんなに甘くないと思いました。今年の新社員にも、「いつまでも学生気分であるな!」と言っています。

前書きはこれくらいにして、私の高校生活を少しだけ書いて見たいと思います。まず、クラブ活動をしている人が少なすぎる。私は野球を3年間していましたが、たぶん野球がなければ今の自分はなかったと思います。やっている時はなんでこんなしんどい練習せなあかんねんとか思っていました。それは勝つためです。練習で泣いて、大会で笑う事こそ最高の感動を与えるのです。クラブの事はわかりませんが、正直言って野球ばかりしていたので他に書く事にこまるのですが私が入学する前、友達に「柏原東は悪いぞ」とか言われましたけど、2年たった今思います。柏原東は少し悪い子もおるけどみんな明るくい子ばかりです。だから今自信を持って柏原東高校を卒業したと言えます。

これからも、もっと良い学校になるように応援しています。がんばって下さい。

# 16期

1992~1995



## Memories



### 16期生のあしあと

16期学年主任  
片平 和彬

16期は、生徒急減期を象徴するかのようには、20数名の定員割れで始まった。12学級で学級定員48名の一時期を思えば、8学級42名定員は随分色々な面でゆとりが生じた。英語・数学・芸術の授業では2学級3講座展開で20数名の授業が実現し、生徒も教師も落ち着いた雰囲気での新学期が始まった。

しかし、「全員卒業を目指そう」という入学式の訴えにもかかわらず、一人また一人と長欠者が目立ち始めた。ある生徒は不本意入学で、ある生徒は家庭事情で、ある生徒は怠学で、またある生徒は不登校…。また、全員入学であることから、学力不足が目立つ生徒への配慮も必要であった。1年経過する間に数十名の生徒が学校を去った。

廊下には観用植物を、教室には黒板消用クリーナーを、そして非常口には網戸を。そして教室は常に美しく。ゴミの分別収集も始まった。いつの間にか誰からともなく、『行事好き学年』と16期生を呼び始めた。なる程学校行事日の出席率はバツグン。裏山耐寒ハイイクも小雪の中無事終わり一人も残らず2学年へ進級した。

教師と生徒。やっとなら2年の中間より信頼関係が芽生え

て来た。次第に校内の喫煙は消え、粗暴な大声も消えた。スケート講習会につづく修学旅行は、両者の協力でクラスタイムや雪上運動会などにとりくみ、すばらしい行事となった。

そして3年。不況下の進路選択。早朝補習・進学補習・個人特訓。体育祭・文化祭にとりくみながら、何とか自らの進路を選んだ。その後、『行事好き学年』は自らの力で、「学年球技大会」(ドッチボール)や、「学年企画」(クラス別コーラスや、有志バンド等)を成功させた。その間、卒業文集を作成し、卒業生全員が登場する卒業ビデオを記念品として完成させた。中退生一人を除いて全員が卒業して行った。

波乱の多い学年ではあったが、いつの日にか是非再会したい思いを抱かせる同期生となったように思う。